地 理 歴 史

1　学習指導と評価の改善・充実

(1) 目標と指導内容との関連を十分に図った指導計画の作成

地理歴史科においては、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養うことが求められており、指導計画の作成に当たっては、地理歴史科の目標を達成するため、教科全体として調和のとれた指導が行われるよう、適切に留意するとともに、中学校社会科及び公民科との関連並びに地理歴史科に属する科目相互の関連に留意することが大切である。

また、指導に当たっては、自主的、積極的な学習活動を通じて、自ら考え正しく判断できる力を育成するという観点から、情報を主体的に活用する学習活動を重視するとともに、作業的、体験的な学習を取り入れるよう配慮することが必要である。

なお、各学校においては、地域、学校及び生徒の実態、学科の特色等に応じ、「世界史Ａ」、「世界史Ｂ」、「日本史Ａ」、「日本史Ｂ」、「地理Ａ」、「地理Ｂ」以外の科目を学校設定科目として設けることができるが、その際は、地理歴史科の目標に基づいた目標、内容であることや、学習指導要領に示されたほかの科目では達成できない目標であること、目標、内容、教材、評価規準、指導体制等を含めた年間指導計画やシラバスの作成が適切に行われていることのほか、次の点に留意する必要がある。

＜学校設定科目を設定し、実施する際の留意点＞

①　地域、学校及び生徒の実態、学科の特色等に応じた特色ある教育課程の編成に資するものであること。

②　高等学校の教育の目標及びその水準の維持等に十分配慮すること。

③　学習指導要領に示された科目との組合せや履修順序等について十分に検討が行わていること。

④　既存の教科・科目と同様の内容を繰り返し学習する科目や単に特定の資格取得等の対策のための演習を目的とした科目ではないこと。

(2) 学習評価を通じた学習指導の在り方の検証と指導の改善・充実

学習評価においては、きめ細かな指導の充実や生徒一人一人の学習の確実な定着を図るため、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価する、目標に準拠した評価を着実に実施することが必要であり、各学校には、学習指導と学習評価を一体的に行い、学習評価の前提となる指導と評価の計画や、観点に対応した生徒一人一人の学習状況を生徒や保護者に適切に伝えていくなど、学習評価の改善が求められている。各学校では、生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、教師が指導の過程や評価方法を見直して、より効果的な指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図っていくことが重要である。

2　「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

(1) 指導方法や指導体制の工夫改善による個に応じた指導の充実

高等学校においては、生徒の特性、進路等が多様化している中、生徒一人一人を尊重し個性を生かす教育の充実を図ることが重要であり、そのためには、指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図る必要がある。

個に応じた指導のための指導方法や指導体制については、学校や生徒の実態に応じ、学校や教師が自らその工夫改善に取り組むことが大切であり、このことにより、生徒に「確かな学力」を育成する取組の改善・充実を図ることが重要である。

(2) 学習指導要領のねらいに即した効果的な指導

ここでは、学力の要素である「思考力・判断力・表現力を育成」し、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ため、工夫改善が図られた効果的な指導の実践事例として、単元構想と単元を貫く「問い」について示す。

授業を構想する際には、生徒の興味・関心や発達の状況、課題意識、既習の経験や知識の習得状況等を把握し、より基本的なもの、本質的なものを精選、重点化するとともに、生徒に意欲的に授業に参加させ取り組ませるために、考察させる学習課題をまず教師が設定することが必要である。

そのために有効な方法が、単元で授業を構想することである。単元とは、教師が定めた授業のねらいに基づき、生徒の学習を動機付け、方向付けるいくつかの学習内容を関連付けて組織した一連の「まとまり」である。この単元のねらいを定め、単元を貫いて考察する学習課題を「問い」（「単元の中心となる問い」）の形で示し、単元を構成する１時間１時間の授業の位置付けやつながりを明確にして授業を組み立てる。

この場合、単元の中心となる問いは、いくつかの小さな「問い」の考察を通して順次深めることができるような学習内容を持ち、単元構想全体で追究されていくものが望ましく、「問い」を作る際は、次のア、イを踏まえ、どのような「問い」を作れば生徒の思考を深め、課題意識を高めることができるのかを十分に吟味することが大切である。

ア　「問い」の役割

授業展開の方向性を定める	考察・追究・探究を促す	評価につなげる
生徒の思考や探究心を刺激し、単元の学習内容について能動的に関わる意識を持たせ、学習への見通しにつながる。	より確かな理解を促し、新しい見方や考え方を抱かせるための学習につながる。	単元の学習内容が「問い」の形で表現されていれば、評価の観点が一層明確になり、「指導と評価の一体化」を図ることにつながる。

イ　「単元の中心となる問い」を設定することの意義

(ｱ) 歴史上頻繁に起こり何度も繰り返される事象や現代世界の成り立ちの来歴に関わる事柄等を持つ「問い」は、歴史的・地理的事象の理解を深めることにつながる。	(ｲ) 歴史上の論争や学問上の議論がある見方等に関連する学習内容を持つ「問い」は、深い思考や新しい理解を促し、考察が持続する学習につながる。	(ｳ) 単元を超えて他の時代や地域の歴史的・地理的事象との比較や関連付けを可能にする「問い」は、地域や文化の多様性や人類共通の課題の考察につながる。

3　単元の指導と評価の例

ここでは、前述の単元構想と「問い」を意識した単元の指導と評価の計画の例を示す。

(1) 「世界史Ｂ」の単元の指導と評価の計画の例

単元名　(3)イ　ヨーロッパ世界の形成と展開

①教科書の章・節の内容と構造をよく吟味して、生徒の興味・関心や課題意識と照らし合わせて、取り上げるに値する価値ある学習課題（単元のねらい）を設定し、適切な学習内容を組み立てる。

【単元の目標と評価の観点の例】

単 元 名	ヨーロッパ世界の形成と展開（８時間）
単元の目標	ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向、西ヨーロッパの封建社会の成立と変動に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程を把握させる。

②単元の学習課題を明確にして生徒に学習の見通しを持たせたり学習への関心や意欲を高めたりする。

〈単元の中心となる問い〉ゲルマン人の活動やイスラーム勢力の進出を受けて、ヨーロッパ世界がどのように形成され、展開していったのだろうか。

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	ヨーロッパ世界の形成、諸地域世界の再編といった動きに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	ヨーロッパ世界の形成と展開及びヨーロッパ文明の特色を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	諸地域世界の接触や交流に関する資料から有用な情報を選択して、図表にまとめる活動を通し、空間的なつながりに着目し、整理している。	キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程についての基本的な事柄を把握し、その知識を身に付けている。

※評価規準は「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）を参考に作成

【学習のねらいを明確に示した単元の指導と評価計画の例】

③学習課題を考察させるための学習過程を定める。単元の始まりでは興味・関心を引き出し、次の学習に意欲的に取り組めるよう配慮する。また、生徒の学習意欲が持続するよう、適切な時間数で単元を定める。

④「単元の中心となる問い」を完結させるような小さな問いを設定する。

⑤学習課題と各時程での学習内容とのつながりを明確にする。単元を貫く学習課題の考察が必然的に順次深まるような指導方法や指導形態を組み合わせ、その展開を工夫する。

⑥単元の評価規準、評価場面、評価方法を明確にする。生徒に学習を振り返らせたり、見通しを持たせたりする機会とするとともに、教師が次の単元構想の練り直しのための資料として活用できるよう工夫する。

時程	学習内容等		評価の観点 関	思	技	知	評価方法等
第1時	【ねらい】ビザンツ帝国のギリシア化とコンスタンティノープルが繁栄した要因について、関心と課題意識を高めさせる。	【問い】西ローマ帝国が滅びた後も、東ローマがビザンツ帝国として繁栄できたのはなぜか。 ビザンツ帝国につながる交易路を調べ、運ばれた商品や帝国に与えた影響に関心を持ち、ノートにまとめたり、意見交換したりする。	◎				諸地域世界との接触や交流に関心を高め、調べたことを自分の言葉で表現し、学習意欲を高めている。（観察）
第2時	【ねらい】スラヴ人の動向が、東ヨーロッパ世界に多様な性格をもたらせたことを理解させる。	【問い】東ヨーロッパに進出したスラヴ人は、どのように自立と建国の道を歩んだか。 スラヴ人の動向を白地図上にまとめることにより、東ヨーロッパ世界の多様な性格を理解する。				◎	国家や宗教を地図に表現することによりスラブ人の動向や東ヨーロッパの多様性を理解している。（ワークシート）
第3時	【ねらい】ビザンツ帝国に対する、西ヨーロッパ世界の独自性について考察させる。	【問い】ローマ教皇は、なぜカール大帝にローマ皇帝の帝冠を与えたのか。 フランク王国が西ヨーロッパ世界を統一できた要因を考察し、結果をノートにまとめ、発表する。		◎			多面的・多角的に考察し、考察した結果を適切に表現している。（ノート、発言内容）
第4時	【ねらい】イスラーム勢力やノルマン人などへの対抗の中で形成された封建社会の特質を資料から読み取らせる。	【問い】西ヨーロッパの封建的主従関係は、どのようにして成立したか。 騎士道物語などの文献資料や絵画資料から、西ヨーロッパの情勢や封建的主従関係について読み取り、まとめる。			◎		資料から読み取ったり、収集したりした情報を適切にまとめている。（ワークシート）
第5時	【ねらい】封建社会の変容と西ヨーロッパ世界の拡大の背景を考察させる。	【問い】「都市の空気は自由にする」という言葉は、何を意味するのだろうか。 農村社会の変化について理解し、商業圏の拡大や中世都市の特質がこの後、どのような社会変化をもたらすのか展望する。		◎			多面的、多角的に考察し、適切に表現している。（ワークシート、発言内容）
第6時	【ねらい】十字軍がヨーロッパ社会にどのような影響を与えたのか図表にまとめさせる。	【問い】十字軍は、社会や経済にどのような影響を与えただろうか。 十字軍の経過や目的を年表にまとめ、十字軍の成果や社会に与えた影響を整理する。			◎		年表にまとめたり、地図にまとめたりしている。（ノート）
第7時	【ねらい】国王による中央集権化に向かう経過を意欲的に追究させる。	【問い】百年戦争とバラ戦争は、その後の社会にどのような変化をもたらしたか。 百年戦争の経過と諸侯や騎士の没落について関心を高め、追究する。	◎				絵画を観察して、気付いた点を自分の言葉で表現し、学習意欲を高めている。（観察）
第8時	【ねらい】諸民族や諸地域世界との交流により、ヨーロッパ世界の形成と再編が促されたことを理解させる。	【問い】諸民族の移動やイスラーム勢力の動向がヨーロッパ世界の形成や変動にどのような影響を与えたのだろうか。 諸地域世界の接触や交流を地図にまとめ、ヨーロッパ世界の形成と変動の要因をまとめる。				◎	単元の学習内容を理解している。（ノート）

※関：関心・意欲・態度　思：思考・判断・表現　技：資料活用の技能　知：知識・理解

(2) 「日本史Ｂ」の単元の指導と評価の計画の例

単元名　(3)イ　近世国家の形成

①教科書の章・節の内容と構造をよく吟味して、生徒の興味・関心や課題意識と照らし合わせて、取り上げるに値する価値ある学習課題（単元のねらい）を設定し、適切な学習内容を組み立てる。

【単元の目標と評価の観点の例】

単元名	近世国家の形成（12時間）			
単元の目標	ヨーロッパ世界との接触やアジア各地との関係、織豊政権と幕藩体制下の政治・経済基盤、身分制度の形成や儒学の役割、文化の特色に着目して、近世国家の形成過程とその特色や社会の仕組みについて考察させる。			
	〈単元の中心となる問い〉近世の国家や社会はどのように中世と異なり、どのように形成されたのだろうか。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	近世国家と社会や文化の特色ついて、ヨーロッパ世界との接触・東アジア世界との関係に着目して、関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	近世国家の形成過程やその特色や社会の仕組みから課題を見いだし、ヨーロッパ世界との接触・東アジア世界との関係を関連付けて、多面的・多角的に考察するとともにその過程や結果を適切に表現している。	近世国家と社会や文化の特色に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択し、情報を読み取ったり、図表にまとめたりしている。	近世国家の形成過程やその特色や社会の仕組みについての基本的な事柄を、ヨーロッパ世界との接触・東アジア世界との関係と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

②単元の学習課題を明確にして生徒に学習の見通しを持たせたり学習への関心や意欲を高めたりする。

※評価規準は「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）を参考に作成

【学習のねらいを明確に示した単元の指導と評価計画の例】

③学習課題を考察させるための学習過程を定める。単元の始まりでは興味・関心を引き出し、次の学習に意欲的に取り組めるよう配慮する。また、生徒の学習意欲が持続するよう、適切な時間数で単元を定める。

④「単元の中心となる問い」を完結させるような小さな問いを設定する。

⑤学習課題と各時程での学習内容とのつながりを明確にする。単元を貫く学習課題の考察が必然的に順次深まるような指導方法や指導形態を組み合わせ、その展開を工夫する。

⑥単元の評価規準、評価場面、評価方法を明確にする。生徒に学習を振り返らせたり、見通しを持たせたりする機会とするとともに、教師が次の単元構想の練り直しのための資料として活用できるよう工夫する。

時程	学習内容等		評価の観点 関	思	技	知	評価方法等
第1時	【ねらい】ヨーロッパ人が日本に来航した背景や日本の歴史に与えた影響を調べることを通して、近世への転換について関心を高めさせる。	**【問い】ヨーロッパ人の日本来航の理由とその影響としてどのようなことが考えられるだろうか。** ヨーロッパ人来航の状況と背景、ヨーロッパ人がもたらした技術や文化を図書館やインターネットなどで調べ、まとめる。	◎				ヨーロッパ人のアジア進出の背景と日本の歴史に与えた影響について課題意識を高めている。(ワークシート、観察)
第2時	【ねらい】織田信長の統一過程を年表と地図から読み取らせるとともに、統一を可能とした要因をまとめさせる。	**【問い】織田信長が打倒した勢力と信長の強さの要因は何だろうか。** ワークシートに示された年表や地図から信長が打倒した勢力を読み取るとともに、統一の要因となった条件や政策をまとめる。			◎		年表と地図から有用な情報を読み取り、信長の統一事業についてまとめている。(ワークシート)
第3時	【ねらい】豊臣秀吉が天下を統一する過程と対外政策について考察させる。	**【問い】豊臣秀吉はどのような論理で天下を統一し、対外政策を進めたのだろうか。** 秀吉がどのような論理で天下を統一し、バテレン追放令や朝鮮出兵を進めたかを教科書等を用いてノートにまとめる。		◎			教科書等に基づき、秀吉が朝廷の伝統的権威を利用して天下人となり、対外政策を進めたことを考察している。(ノート)
第4時	【ねらい】秀吉による太閤検地や刀狩令、人掃令の実態とその影響について考察させる。	**【問い】豊臣秀吉の政策は農民の生活をどのように変えたのだろうか。** 太閤検地や刀狩令、人掃令に関する資料の読み取りを通して、農民支配のあり方がどのように変化したのかについてワークシートにまとめる。		◎			諸資料の読み取りを通して、農民支配の変化について考察し、考えをまとめている。(ワークシート)
第5時	【ねらい】江戸幕府の成立と全国支配を確立する過程を理解させる。	**【問い】関ヶ原の戦いはなぜ「天下分け目の戦い」と呼ばれるのだろうか。** 関ヶ原の戦いの経緯と、その後の大坂の役と幕府による大名配置について理解する。				◎	関ヶ原の戦いの意義と江戸幕府の支配が確立する過程を理解している。(ノート)
第6時	【ねらい】幕藩体制について幕府の組織機構や大名統制、朝廷対策の観点からまとめさせる。	**【問い】幕藩体制はどのような特色をもつのだろうか。** 幕藩体制の特色について、幕府の組織機構や大名統制、朝廷対策の観点からワークシートにまとめる。			◎		諸資料を収集し、幕府の全国支配のあり方を様々な観点からまとめている。(ワークシート)
第7時・第8時	【ねらい】幕府の鎖国に至るまでの対外政策と鎖国の実態について図表にまとめさせる。	**【問い】江戸時代の「四つの窓」とはどこを指し、どのような国々と交流していたのだろうか。** 幕府の対外政策と鎖国に至る過程を年表にまとめる。 「四つの窓」の成立過程とヨーロッパ・東アジアとの交流のあり方を白地図にまとめる。			◎		幕府の対外政策と鎖国に至る過程を年表に適切にまとめている。(ノート) 教科書等に基づき、「四つの窓」を白地図に適切にまとめている。(ワークシート、ノート)
第9時	【ねらい】幕府による身分統制とそれぞれの身分の生活の実態を考察させる。	**【問い】江戸時代の人々にはどのような身分があり、どのような生活をしていたのだろうか。** 幕府による武士や百姓、町人への支配のあり方とそれぞれの身分の生活の実態をグループごとに調べ、発表する。		◎			諸資料に基づき、武士や百姓、町人身分とその生活の実態について調べ、発表している。(ワークシート、発言内容)
第10時	【ねらい】桃山文化と寛永文化について、それぞれの成立の背景と特色を理解させる。	**【問い】桃山文化と寛永文化はどのような社会的背景のもと成立したのだろうか。** 桃山文化と寛永文化を代表する建築・芸術・文物・学問と二つの文化が成立した社会的背景を教科書等を用いてノートにまとめる。				◎	桃山文化と寛永文化の特色について、社会的背景と関連付けながら理解している。(ノート、発言内容)
第11時・第12時	【ねらい】近世の国家や社会が中世と異なる点を考察させ、近世社会が長期間安定した要因について、これまでの学習内容に基づきまとめ、発表させる。	**【問い】近世の社会はなぜ長期間安定していたのだろうか。** 近世の国家や社会が中世と異なる点についてグループで考察し、考察したことを踏まえて近世の社会が長期間安定した要因をグループでまとめ、発表し、次の単元への関心を高める。	◎				近世の国家や社会が中世と異なる点について考察し、近世の社会が長期間安定した要因などについて、学習した内容に基づきまとめ、発表し、課題意識を高めている。(ワークシート、発言内容)

※関：関心・意欲・態度　思：思考・判断・表現　技：資料活用の技能　知：知識・理解

(3) 「地理Ｂ」の単元の指導と評価の計画の例

単元名　(3)イ　現代世界の諸地域
「オセアニアの多様な事象の整理と考察」

①教科書の章・節の内容と構造をよく吟味して、生徒の興味・関心や課題意識と照らし合わせて、取り上げるに値する価値ある学習課題（単元のねらい）を設定し、適切な学習内容を組み立てる。

【単元の目標と評価の観点の例】

単元名	オセアニアの多様な事象の整理と考察（4時間）
単元の目標	(1) オセアニアの地理的事象から課題を見いだし、それらを歴史的背景を踏まえて考察させるとともに、その過程や結果を適切に表現させる。 (2) オセアニアの地域的特色や地球的課題、他の事象と有機的に関連付けて地誌的に考察する方法を理解させるとともに、その知識を身に付けさせる。

②単元の学習課題を明確にして生徒に学習の見通しを持たせたり学習への関心や意欲を高めたりする。

〈単元の中心となる問い〉なぜ、オセアニアは、アジアとの結び付きを強めているのだろうか。

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	オセアニアがヨーロッパよりもアジアとの結び付きを強めている歴史的背景や要因に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	オセアニアにみられる地域的特色や地球的課題を地誌的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	オセアニアに関する諸資料を適切に収集し、有用な情報を選択して読み取ったり図表などにまとめたりしている。	オセアニアにみられる地域的特色や地球的課題や、地誌的に考察する方法を理解し、その知識を身に付けている。

※評価規準は「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）を参考に作成

【学習のねらいを明確に示した単元の指導と評価計画の例】

③学習課題を考察させるための学習過程を定める。単元の始まりでは興味・関心を引き出し、次の学習に意欲的に取り組めるよう配慮する。また、生徒の学習意欲が持続するよう、適切な時間数で単元を定める。

④「単元の中心となる問い」を完結させるような小さな問いを設定する。

⑤学習課題と各時程での学習内容とのつながりを明確にする。単元を貫く学習課題の考察が必然的に順次深まるような指導方法や指導形態を組み合わせ、その展開を工夫する。

⑥単元の評価規準、評価場面、評価方法を明確にする。生徒に学習を振り返らせたり、見通しを持たせたりする機会とするとともに、教師が次の単元構想の練り直しのための資料として活用できるよう工夫する。

時程	学習内容等		評価の観点 関	思	技	知	評価方法等
第1時	【ねらい】資料の読み取りを基に、オセアニアの移民の歴史について把握し、アジア系の移民が増加している背景を理解させるとともに、学習課題を見いださせる。	【問い】オセアニアへの移民は、かつてはヨーロッパ系移民が中心であったが、なぜアジア系の移民が増加しているのだろうか。 図、グラフなどからオセアニアへ移住する人々の出身地の変化を読み取るとともに、年表などからオーストラリアの開拓の歴史について調べ、まとめる。	◎				オセアニアへの移民に関する地理的事象を各種資料から見いだし、適切な学習課題を設定し、ワークシートにまとめている。 （ワークシート）
第2時・第3時	【ねらい】資料の読み取りを基に、オーストラリアの貿易相手国がヨーロッパ諸国からアジア諸国に変化した要因や、オーストラリアの鉱産資源、農畜産物の分布の特徴や輸出について、考察させる。	【問い】オセアニアの鉱産資源や農畜産物の分布、主な輸出先はどうなっているのだろうか。 モノや人の移動の動向について、図、グラフなどを基に経年変化を読み取る。			◎		各種資料から、オーストラリアの貿易相手国の変化やオーストラリアを訪れる観光客の変化などを適切に読み取っている。 （ワークシート）
		図やグラフなどからオセアニア（特にオーストラリア及びニュージーランド）について読み取らせ、どのような特徴があるかワークシートにまとめ発表する。		◎			各種資料から、オセアニアの鉱産資源や農畜産物の分布・主な輸出先を把握させ、他の事象と有機的に関連付けて考察している。 （ワークシート、発言内容）
第4時（まとめ）	【ねらい】オセアニアと日本との関わりを貿易、観光や資源開発など多角的・多面的に考察させる。	【問い】日本企業の多くは、なぜオーストラリアに進出しているのだろうか。 図書館やインターネットなどを活用し諸資料を収集し、グループごとに、オセアニアと日本との関わりについてワークシートにまとめる。				◎	貿易、観光、資源開発などにおいて日本との関わりが深いことを理解している。 （ワークシート、活動観察）

※関：関心・意欲・態度　思：思考・判断・表現　技：資料活用の技能　知：知識・理解

Topic　地理歴史科における「高等学校学習指導要領解説」の一部改訂について

◆　平成26年１月28日、我が国の領土に関する教育や自然災害における関係機関の役割等に関する教育の充実を図るため、平成21年12月に公表した「高等学校学習指導要領解説　地理歴史編」の一部が改訂された。地理歴史科の学習においては、次のウェブページに掲載されている資料なども活用しつつ、地域の実情等を踏まえた指導の充実を図る必要がある。【ＵＲＬ　http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/kannkeisiryou.htm】

１　改訂の概要

【日本史Ａ及び日本史Ｂ】	【地理Ａ及び地理Ｂ】	【地理Ａ及び地理Ｂ】
明治期に我が国の領土がロシアなどとの間で国際的に画定されたことを考察させることや、我が国が国際法上正当な根拠に基づき竹島、尖閣諸島を正式に領土に編入した経緯を取り上げることを明記。	領土問題については、北方領土や竹島は我が国の固有の領土であるが、それぞれロシア連邦と韓国によって不法に占拠されていること等について、我が国が正当に主張している立場を踏まえ、理解を深めさせることを明記。また、尖閣諸島については、我が国の固有の領土であり、また現に我が国がこれを有効に支配しており、解決すべき領有権の問題は存在していないことについて理解を深めさせることを明記。	我が国は、東日本大震災等の大規模な地震や毎年各地に被害をもたらす台風など、自然災害の発生しやすい地域が多く、災害時においては、消防、警察、海上保安庁、自衛隊等の諸機関や地域の人々、ボランティアなどが連携して対応していることなどに触れることを明記。

２　改訂された箇所

●　領土に関する教育の充実について　　※　＿部分が変更箇所

【日本史Ａ】（「２　内容」の「(2)　近代の日本と世界」のアの(ｱ)についての解説）

明治初期の外交については、日本の国際的地位を向上させるための対外政策や、我が国の領土がロシアなどとの間で国際的に画定されたことを考察させる。(略)
また、我が国が国際法上正当な根拠に基づき竹島、尖閣諸島を正式に領土に編入した経緯も取り上げる。

【日本史Ｂ】（「２　内容」の「(4)　近代日本の形成と世界」のアについての解説）

また、我が国の領土がロシアなどとの間で国際的に画定されたことを考察させるとともに、我が国が国際法上正当な根拠に基づき竹島、尖閣諸島を正式に領土に編入した経緯も取り上げる。

【地理Ａ】（「２　内容」の「(1)　現代世界の特色と諸課題の地理的考察」のアについての解説）

…我が国が当面する北方領土や竹島の領土問題や経済水域の問題などを取り上げ、国境のもつ意義や領土問題が人々の生活に及ぼす影響などを考察できるようにする。その際、我が国が当面する領土問題については、北方領土や竹島は我が国の固有の領土であるが、それぞれ現在ロシア連邦と韓国によって不法に占拠されているため、北方領土についてはロシア連邦にその返還を求めていること、竹島については韓国に対して累次にわたり抗議を行っていることなどについて、我が国が正当に主張している立場を踏まえ、理解を深めさせることが必要である。なお、尖閣諸島については、我が国の固有の領土であり、また現に我が国がこれを有効に支配しており、解決すべき領有権の問題は存在していないことについて理解を深めさせることが必要である。

【地理Ｂ】（「２　内容」の「(2)　現代世界の系統地理的考察」のエについての解説）

…我が国が当面する領土問題については、北方領土や竹島は我が国の固有の領土であるが、それぞれ現在ロシア連邦と韓国によって不法に占拠されているため、北方領土についてはロシア連邦にその返還を求めていること、竹島については韓国に対して累次にわたり抗議を行っていることなどについて、我が国が正当に主張している立場を踏まえ、理解を深めさせることが必要である。なお、尖閣諸島については、我が国の固有の領土であり、また現に我が国がこれを有効に支配しており、解決すべき領有権の問題は存在していないことについて理解を深めさせることが必要である。

●　自然災害における関係機関の役割等に関する教育の充実について　　※　＿部分が変更箇所

【地理Ａ】（「２　内容」の「(2)　生活圏の諸課題の地理的考察」のイについての解説）

…近年我が国で発生した東日本大震災などの大規模な地震災害や全国各地に被害をもたらす台風などの風水害、火山災害などの典型的な事例を取り上げ、…。(略)
なお、自然災害については、防災対策にとどまらず、災害時の対応や復旧、復興を見据えた視点からの取扱いも大切である。その際、消防、警察、海上保安庁、自衛隊をはじめとする国や地方公共団体の諸機関や担当部局、地域の人々やボランティアなどが連携して、災害情報の提供、被災者への救援や救助、緊急避難場所の設営などを行い、地域の人々の生命や安全の確保のために活動していることなどにも触れることが必要である。

【地理Ｂ】（「２　内容」の「(3)　現代世界の地誌的考察」のウについての解説）

…自然豊かな我が国は、その表裏をなす自然災害の猛威に苛まれることも多く、東日本大震災という未曾有の試練を経験した今日、自然との共生を図りつつ将来の日本の国土像を生徒自らが探究することが大切である。例えば自然災害については、防災対策にとどまらず、災害時の対応や復旧、復興を見据えた視点からの取扱いも大切である。その際、消防、警察、海上保安庁、自衛隊をはじめとする国や地方公共団体の諸機関や担当部局、地域の人々やボランティアなどが連携して、災害情報の提供、被災者への救援や救助、緊急避難場所の設営などを行い、地域の人々の生命や安全の確保のために活動していることなどにも触れることが必要である。このような学習を通して、日本の将来への夢と希望を抱き、安全で平和な国土を形成する資質や能力を育成することが大切である。